

目的 ファッション性に富む婦人服では、触感や着心地のよさとともに、外観の美しさが特に重要である。その美しさは、静止状態でのシルエットだけでなく、動作や風に伴い生じる布の揺動、ひだなど動的シルエットにおいて強調される。本研究では、動的シルエットと布の力学特性との関連を見出し、より感性度の高い衣服の設計に役立つ基礎資料を得ることを目的とする。

方法 実験用衣服は最も単純な構造とし、フレアーの入ったチュニック型のワンピースで袖は袖口パフのセットインスリーブとした。モデルがスリップの上からワンピースを着用し、歩行や階段昇降などの日常的な動作をし、評価者はこれを見て、動的シルエットの美しさ、揺動などの視覚評価をSD法により行う。布試料はデザインがルーズフィットのワンピースであるため、既報の布の力学特性に基づく最適シルエット判別法¹⁾より、主としてテーラードタイプに用いられる布は除き、はり、ドレープタイプの布(綿、毛、絹、ポリエステル、テンセルなど15種)を用いた。一方、これらの布の引張り、せん断、曲げ、目付けなどの基本力学特性を高感度条件²⁾で測定するほか、低曲率での曲げ、せん断振動特性などを測定し、これらとワンピースの視覚評価との関連を検討する。

結果 布の振動特性に及ぼす布の単位面積当りの曲げ、せん断特性の弾性成分、ヒステリシス成分の寄与が明らかになり、これらが、官能による動的シルエットの美しさに影響することが関連づけられた。

文献 1) Masae Nakanishi, Masako Niwa: Proc. of the 23rd Textile Research Symposium at Mt. Fuji p.217 (1994) 2) 川端季雄・丹羽雅子: 日本繊維機械学会誌, vol.37, T113 (1984)